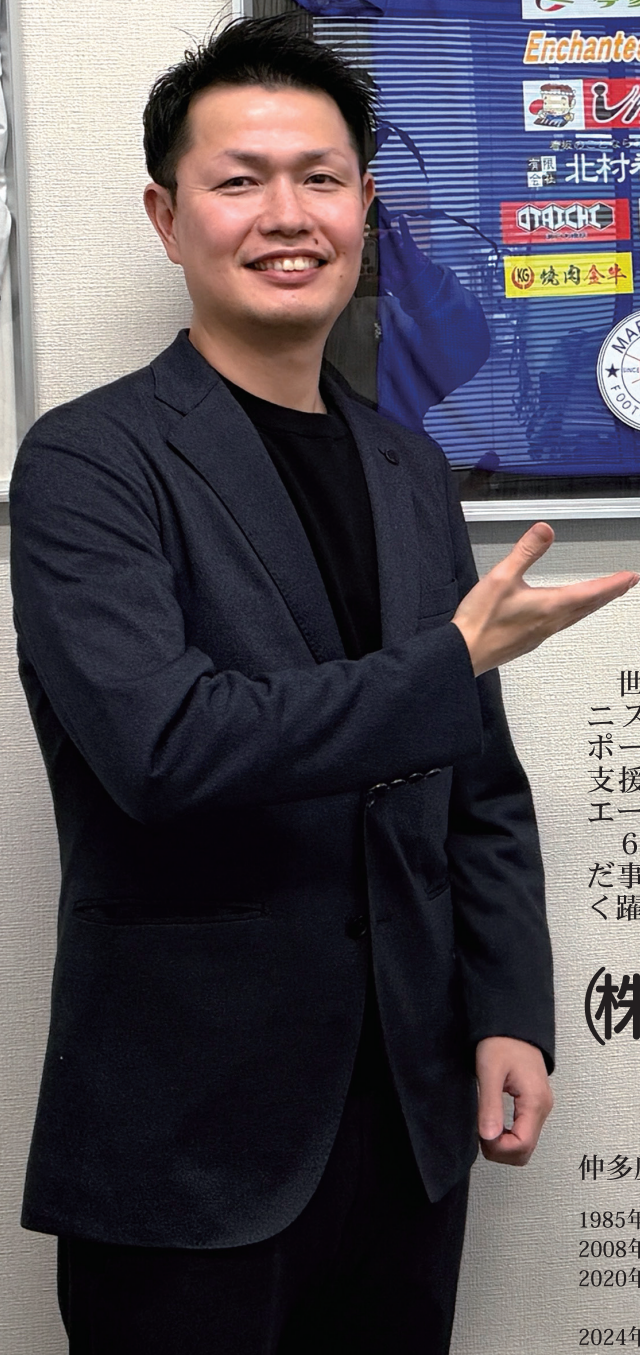


信頼のワンストップで 地域に欠かせない企業へ



世界のトッププレイヤーが参加するソフトテニス大会『FAS CUP』を開催し、地域のスポーツ活動への積極的な参加のほか、地元への支援など地域活性化への貢献を続ける(株)エフエーエス。

6年前に社長に就任した内浪氏は、受け継いだ事業を拡大し続けている。入社から18年。大きく躍進する若き経営者のノウハウ、魅力とは。

(株)エフエーエス

代表取締役 **内浪達也** 氏

仲多度郡まんのう町宮田724-32 tel.0877-75-3780

1985年5月生まれ

2008年4月 (株)エフエーエス入社

2020年10月 (株)エフエーエス代表取締役就任

(株)エフエーエス岡山代表取締役就任

2024年10月 エフエーエスホールディングス(株)代表取締役就任

▽顧客1社から始まる

元々は物流事業としてトラックを出し、建築資材を運んでいました。父の代で、運んだ先で資材の取り付けや施工まで当社で行うよう、ビジネスの構築を進めました。物流業と建築業を一体で行うビジネスモデルは、当時はまだ広く見られるものではありませんでした。

私が大学の卒業単位を取り帰郷した頃は、リーマンショックの時代でした。建築資材を請け負っていたハウスメーカー1社のみとの取引だったため、経営は非常に困難な状況にありました。

純粋に父母を助けたいと思いましたが、手伝っていました。仕事自体がなく、当時は社員の皆さんに賃貸だった今の倉庫のペンキ塗りや掃除くらいしかしてもらったことがなく、昼には帰っていました。

その頃、自分の中に無力感が植え付けられると同時に、「原因は何なのか」という問いが生まれました。原因は1社依存でしたが私も若く、何もできません。仕事があれば現場を回し、社員が辞めていかないうち鼓舞しながらまとめていくことが精一杯でした。

▽転換期

少しずつ配車ができるようになった頃、もう一つ厳しい出来事が起きました。借りていた今の土地のオーナー会社が経営悪化し、父に購入を勧めていただきました。



したが、当時の売上は現在の数分の一程度で、不動産価格は当時の売上の半分の金額でした。

どの銀行も口を揃えてNGを出しました。今なら理由は分かりますが、当時の自分はなぜ貸してくれないのかと考え、他の銀行にも当たってみる中で、ある地方銀行様が決断してくれました。事業の不確定さや顧客数の少なさが課題であると、改めて

認識した時期です。

借入れは無事できましたが、自社の拠点をもち、倉庫の整備や事務所を設置すると、思いがけない変化が起きました。それは、お客様の方から「運んでもらえるか」と依頼が来るようになったことです。

「この場所なら徳島、高知、愛媛にも行きやすい。これまで2拠点で運んでいたものが、ここなら1拠点で済む」と言われ、立地の良さに気づきました。1社が気づくと次々に顧客が増え、仕事が広がっていきました。

25歳頃から30歳頃にかけては記憶が曖昧になるほど忙しい日々でしたが、この経験が今の自信につながっています。

▽物流業界の新しいステップへ

仕事が順調に回り始めてからは、運送が休みの時期、また建築業として工事がない時期の収入の不安が課題となりました。そこで、私や従業員が休みの時でも収入を得られる仕組みとして、不動産賃貸業をスタートしました。

ご縁もあり、三豊市の土地を約2万坪取得しました。多くの方に支えられ、家賃収入も得られるようになりしました。

一部賃貸契約した一部の企業様の商品については当社が運搬も担い、自社の他の事業とも連動した体制を整え、物流業・建築業・不動産業を一体で担う会社となりました。

当社に依頼していただければ、ワンストップでお客様の手間や負担を減らせる仕組みとなっています。

また物流では、単に運ぶだけでなく商品自体の仕入れ・販売も行い、取引先様と相互に支え合う関係の構築を始めています。

▽不況からの学び

リーマンショック以降、何度も大きな危機を経験してきた中で、私の口癖は「リスペクト」と「備える」になりました。

「リスペクト」とは、取引先様や地域の存在があつてこそ事業が成り立つという考えです。自分一人で仕事ができる人はいないと、社員にも伝えていきます。また、これまではエンドユーザーからしか得られなかった「ありがとう」という言葉を社員教育につなげるため、BtoC事業の準備も進めています。

社長就任直後はコロナ禍もあり、

売上も大きく落とす状況でした。現在はどのような状況でも影響を最小限に抑える体制を整えています。グループ3社ともに安定感が出てきましたが、さらに備える力をためていきたいと考えています。

役員とは苦労も成功も分かち合う関係で、家族以上に近い存在です。20代の頃は同世代をうらやましく思うこともありましたが、自分は「ウサギとカメ」で言えばカメだと考え、地道に積み重ねてきました。

▼スポーツの力

ソフトテニスをはじめ、尽誠学園のバスケットボール部や少年サッカーのクラブチームなど、競技の枠を超えて支援しています。私自身、小学2年生から大学までサッカーに打ち込み、プレーだけでなく観戦や応援を通じて多くの出会いを得てきました。

その経験から、子どもたちにも同様の環境を提供したいと考えています。中には、そこから求職者として当社に来てくれるケースや、社員が指導に関わることもあります。



土日に有給を取って、遠征に同行することを楽しみにしている社員の姿を見ると、嬉しく感じます。

こうした活動を通じて互いに助け合う関係が生まれています。今関わっている子どもたちが将来、当社の名前を思い出してくれたら嬉しいですね。

(了)

